

## 日本海水学会若手会第6回学生研究発表会を終えて

山中 真也\*

3月9日(月)、10日(火)の2日間、日本海水学会若手会第6回学生研究発表会が、粉体工学会北海道談話会、化学工学会北海道支部との共催で、北海道登別市の登別グランドホテルにて開催された。本発表会開催の根本の考えを一言で述べると、学生の、学生による、学生のための会である、と私は思っている。これがどれだけ達成されたかは皆様のご判断に委ねるとして、個人的には、学生さんの力を引き出しきれなかった、と自身の想いが不足していたことを反省し、力不足を痛感している。

さて、本発表会では、研究発表会、見学会、次頁で報告する記念講演会を企画し、発表会と講演会には73名(学生41名、一般32名)、見学会には70名(登録者数)の参加をいただくことができた。しかし、猛吹雪により2日目の見学会はキャンセルとなった。見学会への参加を予定されていた皆様の多くは、飛行機の出発が大幅に遅れたり、空港で一夜を明かされたり、札幌で延泊されたり、そもそも折角の工場見学を楽しみにされていたことを考えると「済みません」としか言いようがない。にも関わらず、多くの方々から「いろいろ楽しんだ」との感想を頂き、不意の出来事を1つの思い出としていただいたことに、実行委員としてこの上ない喜びを感じ、感謝の念に堪えない。

研究発表会(写真1, 2)では、口頭21件、ポスター発表24件の発表があった。12分間の口頭発表、



写真1：発表会の様子

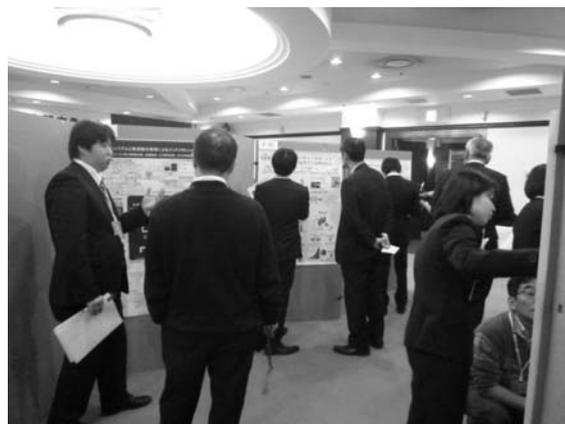


写真2：ポスター発表の様子



写真3：優秀賞受賞者の記念撮影

60分間のポスター発表とともに、学生が愚直にまじめに取り組んだ日頃の成果を発表し、質問に対して正面から向き合っている姿が印象的で、非常に活発な議論がされていたように思う。発表終了後、優秀賞の集計作業が行われ7名の発表者に優秀賞が授与された(写真3)。受賞された発表者と発表タイトルを以下に紹介する。受賞者だけでなく、惜しくも受賞を逃した学生も、それぞれの思いを胸に秘め、より一層研究に打ち込まれている、あるいは新天地での仕事に日々奔走していることと思う。

優秀賞受賞者(敬称略50音順)

口頭発表：

大野 真知嗣(日本大学大学院)

$N_2$  ファインバブルと貧溶媒の併用によるインドメタシンの晶析現象

\*室蘭工業大学 〒050-8585 室蘭市水元町 27-1

加藤 小夏 (横浜国立大学)

貧溶媒中におけるカリミョウバン結晶の攪拌羽根への衝突にともなう微結晶発生量の定量化

澤田 紋佳 (室蘭工業大学大学院)

ナトリウムを利用したリン化合物系脱硫触媒の低温合成

ポスター発表:

北川 祥行 (日本大学大学院)

金属-有機構造体(MOF)のMethanol to Propylene (MTP) 反応への応用

工藤 弘輝 (千葉工業大学大学院)

大気圧プラズマ/微細液滴複合法を用いたハイドロキシアパタイトの合成

後藤 優太 (室蘭工業大学大学院)

泡沫分離法によるホッキ貝蓄養水の処理に関する基礎的研究

前澤 祥太 (日本大学大学院)

気-液界面晶析場を用いたグリシンの多形制御



写真4: 夜の部の様子

北海道の味や温泉(登別温泉は、世界的にも珍しいとされているバラエティ豊かな泉質が魅力とのこと)を楽しんだ後、初日の夜の部(写真4)では、日頃の想いや鬱憤を肴に、明け方まで交流を深めていたようで、他大学の学生、教員、企業の方々との

交流をとおして、多くの刺激を受けたはずである。本研究発表会の趣旨は、まさにここに(も)あり、と思う。

2日目には、公益財団法人ソルト・サイエンス研究財団との共催で、「循環型社会の構築に向けた海水資源の有効利用」のテーマで記念講演会が行われた。北海道では、農畜水産業のバイオマス利用、環境・エネルギー問題に関する研究が盛んに行われている。これら地域産業と経済発展に寄与する研究・技術開発のみならず、それを担う研究者・技術者の育成、とりわけ高い倫理観を兼ね揃えた人材育成は大きなテーマである。講師に室蘭工業大学 理事・副学長(現 学長)の空閑 良壽先生を招き、「私の新天地での研究と執行部の仕事 -粉砕法プラス $\alpha$ による機能性微粒子の創製と海水資源の有効利用-」という題目でご講演いただいた。一瞬のチャンスを逃さないことの大切さ、研究の醍醐味をご自身の経験を交えて丁寧にお伝えいただき、参加者にとって非常に貴重なメッセージとなった。実験ノートの重要性を再認識させられた点も印象深い。

最後に、記念講演を快諾いただいた室蘭工業大学 空閑 良壽先生に御礼申し上げます。また、学生発表会の実現には、粉体工学会北海道談話会、化学工学会北海道支部、および公益財団法人ソルト・サイエンス研究財団に多大なるご支援をいただきました。発表会の運営にあたり、若手会幹事の皆様、実行委員の公益財団法人塩事業センター海水総合研究所の中村 彰夫氏、室蘭工業大学 界面・化学工学研究室の学生スタッフの皆様には、多岐にわたりサポートいただきました。本報告記作成にあたり、千葉工業大学 和田 善成氏に写真を提供いただきました。ここに記して謝意を表します。なによりも、貴重な研究成果と積極的なお手伝いで本発表会を盛り上げていただいた、学生諸子に心より感謝申し上げます。



第6回学生発表会，記念講演会集合写真